

2023(令和5年)年度の計画

事業所・委員会名 さんさんまりんこども園・支援センター

【2022年度計画・目標】

① 【職員の資質向上及び人材育成】

- ①各保育士の資質の向上を図るため、キャリアアップ研修の受講を継続すると共に個人的に希望する園外研修により自己研鑽を促し、職員個々の保育・教育の力量の向上を図る。
- ②「保育ドキュメンテーション」の作成と交流を充実させることで子どもを見取る目を鍛え、保育活動の質的向上を図る。
- ③外部アドバイザーの招聘による研修を継続して行っていく。

② 【計画的な保育実践や特色ある活動】

- 『子どもの生活や遊びを通して「生きる力」を育む』という教育目標の実現のため、
- ①昨年度見直しを行った全体計画と各クラスの年間指導計画を月案や週案に具体的な活動や手立てとして反映させて系統的な保育・教育の実現を目指す。
- ②専門性の高い講師やボランティアを招聘したり、子どもが楽しめるイベントを企画したりして子どもが楽しく園生活を送れるようにすると共に特色ある園経営を行っていく。
- ③栽培活動を計画的に行い、努力して得た収穫物を食す喜びを通して食教育を充実させていく。

③ 【保護者との信頼関係の構築】

- ①保護者アンケート(令和4年1月実施予定)により保護者との信頼関係が構築できているかどうかを調べ、その結果を考察することを通して、園としての自己評価を行い、改善を図る。
- また、その分析結果や今後の取組等をHPに公表することを通して、多方面からの示唆や指導をいただきながらさんさんまりんブランドを高めていく。

④ 【環境構成の充実】

- 子ども達に主体的な活動が生まれる環境構成を行っていく。そのために、
- ①ありのままの自分を出せる教師との信頼関係を築くことで温かい雰囲気、居場所をつくる。
- ②自由に触れることのできる場づくりを行う。
- ③時期に応じた絵本や図鑑、壁面の構成を行う。
- ④じっくりと取り組める時間や場・材料・用具を準備する。
- ⑤一緒に試行錯誤を繰り返すことのできるクラスづくりを行うと共に、子どもの活動を見守ったり揺さぶったりできる保育士になるよう力量を高めていく。

<支援センター>

【学び・支え・親子の力を引き出す場として】

コロナ禍での利用者の安心と安全を確保しながら、利用者同士の交流を充実させ、支えあう人間関係づくりの場になるよう努める。また、保育士は支援者として利用者に寄り添い、親子の成長を阻む要因の解決に努め、様々な活動を通して刺激や学びを得る機会を作り出し、親子の力を引き出すように働きかけていく。

【2022年度報告・反省】

○【職員の資質向上及び人材育成】

- ①については計画的にキャリアアップ研修と若手の外部研修を進めると共に、年間計画に沿った内部研修も行うことができた。
- ②保育ドキュメンテーションを継続的に全担任が作成し、全体職員会で紹介し合って研修した。
- ③広島県乳幼児教育支援センター金岡アドバイザーを招聘して保育参観及び年間計画の見直しを行った。

○【計画的な保育実践や特色ある活動】

- ①年間指導計画と月案・週案との整合性に留意し、系統的な保育・教育の実現に努めた。
- ②専門講師やボランティアから毎回話を聞いて園児の状況を把握し日常の保育への還元を図った。
- ③栽培活動の成果物を利用して行事や日常の設定保育との連続性を意識した食育を行った。

○【保護者との信頼関係の構築】

保護者アンケートを1月に実施し、考察・自己評価・改善を図ると共に、その分析結果や今後の取組等をHPに公表した。

○【環境構成の充実】

子ども個々の発達状況や個性・特性を見極めながら、日常の保育・教育を大切にしたい取り組みを進めることができていた。

- ①人的環境 ②物的環境 ③時間的環境 ④社会的環境 の4つの視点を柱として今後も継続的・計画的に環境構成の充実を図っていく。

<支援センター>

【学び・支え・親子の力を引き出す場として】

コロナ禍ではあるが、イベントについては定員が常に確保でき好評である。
普通日の利用者の減少はあるが、定期的に利用される方もあり、利用者間の交流や相談活動等については今後も継続して行っていく。

【2023年度目標 取り組み内容】

①	<p>【職員の資質向上及び人材育成】</p> <p>①キャリアアップ研修の受講は昨年度に続き計画的に行う。また、管理職による人材育成計画に基づき3園における人事交流や外部研修等により計画的・全体的な人材育成を図る。</p> <p>②「保育ドキュメンテーション」の質的向上を図るため、非常勤講師も含めた実践交流を充実させる。</p> <p>③引き続き広島県乳幼児教育支援センター金岡アドバイザーの指導・助言のもとに保育士個々の力量を高めると共に保育士集団としての保育・教育へのプライドの醸成を図る。</p>
②	<p>【計画的な保育実践や特色ある活動】</p> <p>①幼児クラスの年間指導計画を見直すと共に月案や週案への整合性を図るために、全クラスで年度当初に年間のテーマを設定し、運動会・発表会等の行事を含めて一年を通じての大まかな見通しを立てさせ、系統的・継続的な保育・教育の実現を目指す。</p> <p>②引き続き英語活動、リトミック、ねむの木サークルの読み語りをはじめ、高齢者との世代間交流なども含めて楽しく園生活を送れるような特色ある園経営を行っていく。</p> <p>③園内でのプランター等による栽培活動の他、新しく園外菜園の設置も含めた栽培環境の充実を図り、田植え・稲狩り・芋ほりなどの体験活動や収穫物を利用した食教育を充実させていく。</p>
③	<p>【保護者との信頼関係の構築】</p> <p>①自己点検・自己評価を始め、保護者アンケートなどの関係者評価も行いながら、園経営を客観的に評価し改善すると共に、本年度からR4年度反省とR5年度年間計画も含めてHP等で情報の開示を行う。</p> <p>②各保育士が懇談や面談だけでなく、日々の連絡帳や登降園時の連携等で積極的に保護者に対してアプローチを行い、子どもの情報を親と共有していく。</p> <p>③園児の体調不良や怪我等のアクシデントは、即時管理職に報告・連絡・相談・確認を行い、保護者への説明や謝罪を真摯に行うことによって嘘のない保育・教育を行っていく。</p>
④	<p>【環境構成の充実】</p> <p>昨年度に引き続き、子ども達の自主性・主体性を培う為、次のような環境構成を行う。</p> <p>①保育士は最大の人的環境であり、子どもとの愛着関係を築くことを第一義とする。そのため「意図的・効果的な言葉かけ」「個々へのかかわり方の工夫」「まなざしの共有」を行う。</p> <p>②物的環境として1階園庭・屋上園庭・保育室・廊下・空きスペース等の活用の工夫や教材・絵本・図鑑等の補充や整備を行う。</p> <p>③時間的環境として子どもが個別や集団でじっくりと取り組める時間を確保する。④社会的環境として、各季節特有の行事や地域でのイベントなど園内外での活動の工夫と積極的な参加を行う。</p>
支援センター	<p>【学び・支え・親子の力を引き出す場として】</p> <p>①コロナ禍での利用者の安心と安全を確保しながら、利用者同士の交流を充実させ、支えあう人間関係づくりの場になるよう努める。</p> <p>②保育士は支援者として利用者に寄り添い、親子の成長を阻む要因の解決に努め、様々な活動を通して刺激や学び得る機会を作り出し、親子の力を引き出すように働きかけていく。</p> <p>③特色や工夫のあるイベントを開催し、利用者が期待感をもって安心して楽しく参加できる子育て支援センターにしていく。</p>